

2015年
新年号

～ 加戸病院通信 第53号 ～



ハンド イン ハンド
hand in hand



医療法人弘友会
加戸病院

〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子 771 番地 TEL : 0893-44-5500 FAX : 0893-44-3300
E-mail : koyukai@kato-hp.jp URL : http://kato-hp.jp/

年頭のご挨拶

『明けまして
おめでとうございます』



・(医)弘友会 理事長
・加戸病院 院長
・外科・肛門科医長
か と しゅういち
加戸 秀一

あけましておめでとうございます。

ここ数年、世界ではオバマ大統領の「チェンジ」に始まり「アラブの春」そして日本では政権交代と様々な劇的変化がありました。その変化に我々は大きな期待をかけていたにもかかわらず、現在のところ北アフリカ諸国の混乱、シリア内戦、ウクライナ問題とイスラム国の台頭など混乱が続いています。

弘友会においても加戸病院の内子への移転という大きな変化があり、システムの変更による混乱がありました。

世界で、そして私たちの周りで起きている

変化は、一見混乱だけを引き起こしたように見え、より良いものへの変化であっても変化というものは一時的な混乱を伴います。その先のより良い組織、より理想的な世界に進んでいくか、混乱の中で迷走するかは芯の通った理念があるかどうかで道を分けると思っています。

弘友会は今年も理念の下、皆様のご協力を得ながら医療、福祉の道を進んでいきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

第12回 加戸病院健康セミナーを開催しました(H26.10.25)

テーマ:「リビングウィル ～人間らしく最期を迎える～」

講師:加戸病院 院長 加戸 秀一

加戸病院 事務部 武井 信幸

「超高齢社会」である日本では、すでに総人口の4人に1人が高齢者となっています。そのような中、いかに人生の最期を迎えるか、迎えてもらうか、ということが多くの方にとって身近な問題となっているのではないのでしょうか。

今回の健康セミナーは当院の院長である加戸秀一医師が「リビング・ウィル」について講演しました。「リビング・ウィル」という言葉は、まだまだ一般的ではありませんが、昨夏には愛媛新聞で特集連載が組まれるなど、徐々に関心の高まりを見せています。今回のセミナーも大勢の方に当院にお越しいただき、講演の後の質疑応答でも多くの質問や感想が寄せられました。

「リビング・ウィル」とは、直訳すれば「生前意思」です。尊厳死を望む場合は「死期を延ばすだけの延命治療はしないこと」ですが、広い意味では「葬儀の方法や臓器提供の可否」なども含まれる幅広い概念だそうです。つまり、延命処置を希望するかどうかなど、終末期においてどのような治療を望むのか。さらに、治療のみに限らず、人生の最期を迎えるにあたってのあらゆる希望事項が含まれ、それらについて意思表示することだと理解しました。

「意思を表示する」と言うのは容易ですが、本人や家族にとってはこれほど難しい課題はありません。生死に直結する重い問題であるうえに、情報も十分ではないからです。講演では、現在どのような疾患に対してどのような治療が行われているか、どのような選択肢があるかが紹介されました。そもそも延命処置とは何か、癌や嚥下障害・摂食障害といった疾患に対して取りうる^{えんげ}選択肢やそれぞれのメリット・デメリット、人工呼吸器の使い方などについて学ぶことができました。また、「リビング・ウィル」はできれば書面で残



しておくこと、書くべき項目についてなど具体的なアドバイスもありました。

加戸院長は「リビング・ウィル」を残すにあたっての重要なポイントをいくつか指摘しました。まず、本人の哲学・死生観を挙げました。自らの最期に何を望み、どう在りたいかは、各人の人生観・死生観の問題に他なりません。院長が実際に診療に当たった終末期の患者さんのエピソードや、「どんな人にも哲学はある」けれども「しっかりとした哲学を持った人ほど強い人はいない」という院長の言葉は強く印象に残りました。次に、本人が家族の理解を得ること、そのために普段から家族としっかりと話をしておくことが必要になるとのことでした。普段の生活の中で話題にしにくい難しい問題だからこそ、正面から向き合いコミュニケーションを密にしておくことが必要になると感じました。最後のポイントは、地域の医療・介護の環境です。看取りを希望される方が何を望み、また何を障害と考えているか例を挙げて話し、医療や介護を提供する側としての課題を示しました。ご本人やご家族の意思をくみ取り、希望に添えられるように、日々努めなくてはならないという思いを新たにしました。

「職場体験学習（インターンシップ）」

（期間：H26.11.13・14）

平成26年11月13日～14日の2日間、地元の内子町立内子中学校の生徒さん4名が「職場体験学習」をされました。2日間という短い時間でしたが、将来の進路選択などに役立てれば良いなと思っています。4名の生徒さんからお礼のお手紙をいただきましたのでご紹介させていただきます。

内子中学校2年 森岡 明香

先日はお忙しい中、私たちのために時間を割いていただきまして、本当にありがとうございました。

職場体験では、普段入ることのできない手術室での見学や4階病棟で患者さんの看護をさせていただき、貴重な体験ができました。

看護師さんに「寝たきりの人でも物として扱わない。最期まで『人』として接する」と教えていただいたことが一番心に残っています。患者さんに気を配りながら、8動いて周りをしっかり見渡すこと、患者さんのことを一番に考えることを学びました。

今回学んだことを今後の生活でしっかり生かして、夢である医療関係の仕事に就けるよう頑張ります。

最後になりましたが、これからもお元気でお仕事頑張ってください。みなさんのご親切を忘れません。

内子中学校2年 岡本 光里

先日はお忙しい中、私たちのために時間を割いていただきまして、本当にありがとうございました。

職場体験では、たくさんのことを学びました。その中で一番心に残っていることは、4階病棟にいる患者さんの手足浴をしたことです。手や足が固まってしまっていて、指の間を洗うのは難しかったです。記憶がある方でもない方でも洗うときは声かけをして、急に洗われても驚かないようにされていました。その時、患者さんのことを考え、声かけをすることは大事だということを知りました。

2日間の体験学習で、たくさんのご迷惑をおかけしたと思いますが、この体験が私にとって有意義なものとなったのも、担当の方々のおかげです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

内子中学校2年 平井 杏奈

先日はお忙しい中、私たちのために時間を割いていただきまして、本当にありがとうございました。

2日間の職場体験では、自分の将来の夢に生かす体験がしっかりとできました。心に残ったことは、1日目の4階病棟での体験の時に、患者さんの手足浴をさせていただいたことと患者さんとお話したことです。手足浴をしている時に、患者さんが「ありがとう」と言っているような表情でこちらを見ていたのでとっても嬉しかったです。会話では、話しているうちに少し話がそれてしまったけど、楽しくて最後には「勉強頑張れよ。また来いよ」と言われて、嬉しかったです。涙が出そうになり、患者さんに勇気をもらおうと同時に「看護師に絶対になる」という気持ちが強くなりました。

2日目の手術見学では、患者さんの不安を軽減するために、看護師の方が声かけをしていることなど、気付くことができました。この2日間の体験を通して、また新たに目標ができました。その目標に向かって勉強を頑張ります。2日間の体験学習でたくさんのご迷惑をおかけしたと思いますが、この体験が私にとって有意義なものとなったのも担当の方々のおかげです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、これからもお元気でお仕事を頑張ってください。

内子中学校2年 高尾 美月

先日はお忙しい中、私たちのために時間を割いていただきまして、本当にありがとうございました。

職場体験では、患者さんの手、足を洗ったり、患者さんからのメッセージや手術見学などが心に残っています。この仕事をするには何が必要か、どんな行動をしないといけないかよく分かりました。この職場体験で看護師になりたい気持ちが以前より高まった気がします。

今回学んだことを今後の生活に生かし、よりよい大人に成長していきたいです。みなさんのご親切を忘れません。

最後になりましたが、これからもお元気でお仕事を頑張ってください。



第13回 弘友会研究発表大会 (H26.11.17)

加戸病院 事務長 大野 隆司

平成26年11月17日、加戸病院研修室において第13回目となる弘友会研究発表大会が開催されました。今回もテレビ会議システムを使い、モニターを通して大洲の老人保健施設フレンドにも中継しました。また、近隣の事業所からも6施設14名参加していただき、合わせて120名の参加人数となりました。

今年は、計6演題の発表となりました。加戸病院からは3演題ありました。訪問リハビリ科より「在宅でのリスク管理～実際にインシデント・事故・苦情を通して～」と題して、日常起こり得るインシデントをマニュアル作りや情報共有によって予防、対策をしているという内容の発表でした。療養病棟は、「酸素加湿器の細菌の発生状況～管理方法の検討～」で、酸素加湿器を衛生面から見た管理方法を検討したという内容の発表でした。今回の研究内容では明確な差が出なかったが、細菌繁殖のリスク軽減の最良の方法と業務の円滑化、各部署統一した管理を検討していきたいとの発表でした。薬剤科からの発表は、「喘息とCOPDの吸入薬の指導」と題して、喘息、COPDの患者さんに対する吸入薬を、適切な使用方法により治療効果が十分に得られるよう指導を行っているという内容でした。特に高齢の患者さんでは理解力の不足や吸入力の低下などで適切な使用ができなくなっている方もいて、薬剤剤を変更したり、吸入指導で治療の必要性や意義を指導しているとのことでした。

老人保健施設フレンドからは2演題でした。栄

養科からは、「ソフト食の充実」で、咀嚼障害を持つ高齢者でも安全にかつ美味しく食べることができる「ソフト食」の改善で、食材を増やしたことによる彩りの改善や圧力鍋での調理方法や凝固剤の使用による見た目の改善を行い好評を得ているという内容でした。

在宅支援センター・訪問看護ステーションフレンドからは、「在宅復帰における介護と医療の連携について」で、在宅医療と介護の連携は今後も重要視されてくる。医療依存度が高い高齢者もすみなれた自宅に戻ることができるよう本人を取り囲む関係者が連携をし、在宅復帰に向けての取り組みを発表しました。

加戸病院グループの関連施設である、希望ヶ丘荘からも発表があり、「介護力向上の取り組みについて」と題し、介護力向上の取り組みを多職種で行い、レベルアップに繋がった事例をもとに発表しました。特に水分摂取に重点をおいた内容でした。各演題ともそれぞれ部署の特徴を生かした内容で課題に取り組み、その成果を発表しました。発表後の質疑応答では、近隣の事業所の参加者等からも活発な意見・質問をいただき、テレビ会議システムを通してフレンドとの意見交換も行われました。

審査の結果で、最優秀賞は希望ヶ丘荘の「介護力向上の取り組みについて」が選ばれました。今後も日々の業務の中で、常に問題意識を持ち、改善し、実績を出してそれを発表することで組織全体の活性化に繋がっていくものと思います。





《 栄養だより 》

加戸病院 管理栄養士 駿河モモ

寒い冬を乗り切る食べ物

そろそろ寒さが本格的になってきましたね。皆様のご家庭では寒さを凌ぐために食事で気を付けられていることはありますか？

実は、食材には体を温めるもの、冷やすものがあります。

寒いところに住む人は、自然と体を温めるものを食べるようになり、その作用のある食物を育てて、収穫するという習慣があります。逆に暖かい南方で採れるものは暑さをとり、暑い夏に収穫されるものは体を冷やすようにできています。

また、食材で色が濃いものの方が体を温める効果があると言われています。白米よりは玄米、緑茶よりは紅茶、白ごまよりは黒ごま、白砂糖よりは黒砂糖、白ワインよりは赤ワインなどの方が効果的なようです。

そして、地下に埋もれている根菜類や芋類は自分に熱があるので、熱い太陽から逃げようとして地下へ深く伸びようとします。逆に冷たい性質をもつ食材は、熱を得ようと太陽に向かって伸びていきます。

寒い日の一品として豚汁はいかがでしょう？



豚汁のレシピ

材量（1人分）

豚もも肉	20 g
酒	1 g
塩	0.1 g
植物油	1 g
大根	30 g
人参	10 g
ごぼう	15 g
板こんにゃく	20 g
ねぎ	5 g
味噌	10 g
だし汁	150 ml
しょうが	2 g

作り方

- ①豚肉は2 cm角に切り酒、塩に漬ける。
- ②大根、人参はいちょう切りに、ごぼうはさがきにし、水につけてあく抜きをする。板こんにゃくは色紙切り、ねぎは小口切り、しょうがはすりおろす。
- ③鍋に植物油を入れ、①の豚肉をさっと炒め、だし汁を加える。
- ④③に大根、人参、ごぼう、板こんにゃくを加え、沸騰してきたら弱火にし、あくを取りながら、15分くらい煮る。
- ⑤味噌を加え、ねぎ、しょうがを加え、火を止め、器に盛る。

栄養価

エネルギー 103kcal

